「独裁者は真実を恐れる」　　2023年10月02日

ロシアのウクライナ侵略戦争以来、民主主義と強権主義の対立が深まり、どちらにも与しないグローバルサウスと呼ばれる国々もあり、それぞれ勢力圏を広げようと懸命になり、世界は分裂した状態にある。Ｇセブンと言われる国々は民主主義国家と言われているが、民主主義の完成はなく、常に、民主主義を作り出そうとしている途上国である。25日の「東京新聞」は「社説」に「弾圧のロシア　独裁者は真実を恐れる」を掲載していた。プーチン政権では、欧米のスパイを意味する「外国の代理人」という言葉があり、これに指定された団体・個人は７月末時点で 649 に上り、半年間で25％増加した。反戦デモへの参加で拘束された人は２万人を超え、人権状況は著しく悪化している。「特別軍事作戦」と強弁し「戦争」と呼ぶことを禁じる欺瞞の下にある。「プーチン体制の本質は嘘と暴力である。真実が広まれば、統治能力を失うことを恐れているのではないか。社会に沈黙を強いる恐怖支配の先に国の展望は開けない」という論旨に賛同する。

米誌は、ロシア兵12万人、ウクライナ兵７万人の戦死数を報告している。ウクライナの民間人と子どもたちを合わせると20万人を遥かに超える数字になる。

命が無為に失われているこの地の悲しみと怒りはいかばかりか。「真実」という言葉は、それを使う人の価値観から見た状況で用いられることがあるので、私は「事実」を直視することが重要だと思っている。事実を捻じ曲げ、権力者たちの思想や都合に基づいて、国民の意思を抑え込む国家は潰え去る運命にある。しかし、その強権国家が崩壊するまでの国民の犠牲は測り知れない。この悲劇を避けることが政治の役目、人権を尊重し、平和を目指す世界諸国の責任ではないか。

北朝鮮（朝鮮民主主義共和国）の金正恩総書記は、核とミサイルに特化した軍事態勢を強固にし、米欧の脅威から国を守ると豪語している。しかし事実は、金王朝を称え、維持するためだけに国民に犠牲を負わせ、人権無視を通り越し、飢えが蔓延している。世界の情報は遮断され、国民は暗黒に放置されている。日本が戦時中、国体（天皇制）を守るため、国民の命と生活を無視した状況と重なって見える。北朝鮮の国民が置かれた状況を理解できるのは日本人ではないか。ミャンマー（元、ビルマ）で軍事クーデターが起こって２年経つが、民主と自由を求める市民たちは少数民族と組んで「武力闘争」を繰り広げ、解決の道筋は全く見えていない。どれだけの人が命を落とし、難民になっていることか。ミャンマーの国民は民主主義を経験した年月は短いが、市民は民主と自由を体験し、命を賭して、これを求めている。香港は自由度を誇った都市であったが、2020年に香港国家安全維持法が成立した後、中国による言論統制が徹底し、息苦しい状態になったと、岩波の『世界』は「香港からの通信」で報告している。ロシア、北朝鮮、ミャンマー、中国の強権統制による国民の命と声の抹殺には、恐怖を覚える以外の何ものでもない。

自由な意思を持つ人間は、それを言葉と行動で表すことができる所で、人権が尊重され、自分を生きる者となる。私は民主と自由が保障される国に住みたい。ひるがえって、日本は権力によって言葉を封じられていないか、行動が規制されていないか。もちろん、上記４ヶ国ほどではないが、権力が肥大化していることを危惧している。権力が自己増殖を計ることは当然であろうが、権力が自己目的化することを阻止するため、市民が民主と自由を求める声を上げ続け、司法が政権に忖度せず憲法に基づく判断を下すことが大切である。それは「事実」を抹消することなく、共有するところから始まると思っている。